



なでしこ



令和5年(2023年)1月31日

No. 26

子どもたちに「読み解く力」をつけていくために



校長 中村 真理子

**読み取る力を
のばそう**

グラフから読み取ろう

次の表やグラフは、4年生の4月から7月までの落とし物の数を表したものです。この表やグラフについて、答えましょう。

4年生のクラス別の落とし物の数 (こ)

	4月	5月	6月	7月	合計
1組	18	15		13	
2組	19	17	9		
3組	13	12	10	11	
合計					

(こ) 4年生のクラス別の落とし物の数

1 6月の1組の落とし物の数は、いくつですか。

2 2組の4か月間の落とし物の数の合計は、いくつですか。

3 3組の折れ線グラフをかき加えましょう。

4 表のあいだのらんにあてはまる数を書きましょう。

5 次の①～③について、表やグラフからいえることには○、いえないことには×をつけましょう。

① 5月と6月の間で、落とし物の数の変わり方が一番大きいのは2組です。
② 6月と7月の間で、1組と2組の落とし物の数はへっているのに、3組の落とし物の数もへっています。
③ 4月は3組の落とし物の数が一番少なくなっていますが、7月は3組の落とし物の数が一番多くなっています。

6 Aさんは、左のページの表を使って、4か月間の落とし物の数の合計を求めて、右のようにクラス別のばうグラフに表しました。そして、このグラフを見て次のように考えました。

ばうグラフを見ると、3組の落とし物の数は、1組の半分くらいだとわかります。

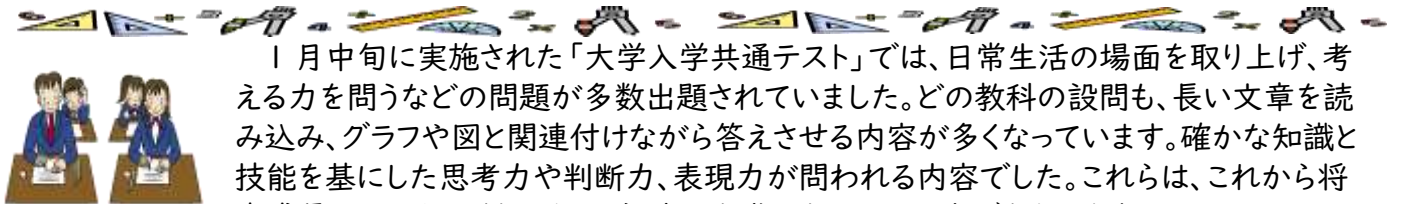
この考えは正しいでしょうか。わけも説明しましょう。

7 5年生の日さんは、5年1組と2組の落とし物の数を調べて、合計を右のグラフに表し、次のように考えました。

落とし物の数の合計はへり続けているので、1組と2組も落とし物の数はへり続けているといえます。

この考えは正しいでしょうか。わけも説明しましょう。

↑4年算数教科書「わけも説明しよう」と、多くの問題で問われています。



1月中旬に実施された「大学入学共通テスト」では、日常生活の場面を取り上げ、考える力を問うなどの問題が多数出題されていました。どの教科の設問も、長い文章を読み込み、グラフや図と関連付けながら答えさせる内容が多くなっています。確かな知識と技能を基にした思考力や判断力、表現力が問われる内容でした。これらは、これから将来成長していく子どもたちが、社会から求められている力でもあります。

本校でも、思考力や判断力が必要な「読み解く力」をつける学習を、各学年で行っています。

例えば、算数科「データの活用」という領域では、上の教科書の写真にあるように、「グラフ」について、かなり深く読み取る学習を行っています。

子どもたちには、どの学年でも、課題解決のために必要な資料やデータを「読み解く力」がついていくように、学習を進めています。

さらに、これからの社会の課題に対して、様々な人と協働して、よりよい方向を見出していくためには、互いの良さを認め尊重し合い、折り合いをつけていく力や、仲間と周囲とのつながりを大切にする心、相手の言葉やしぐさ、表情から相手の思いを「読み解く力」も必要になります。

個人で学習することも大切ですが、右上の写真のように、本校が、子どもたちの「対話的・協働的な学び」を大切にしている理由もそこにあります。



【6年理科グループで実験】



各学年のまとめの時期に入ってきました。春には、それぞれの学年の学びを積み上げ、進学・進級していくことを念頭におきながら、2月も子どもたちの学びを支えてまいります。

【草津小HPに、子どもたちの活動等を毎日更新中。「配付物」等も順次掲載しています。ぜひアクセスを!】

Q:子どもの「読み解く力」を伸ばすために、日ごろから家庭でもできることはありますか？

A: ある程度の長さのある文章を読んで必要な情報を見つけたり、いろいろな条件が示されている中から、必要な情報を選んで活用したりする力は、国語科の学習だけでなく、どの教科でも、またこれから様々な情報に触れていく中でも必要となる、大切な基礎です。学校の授業だけではなく、家庭での毎日の学習習慣を大切にする事で、「読み解く力」を伸ばしていくことができます。

読書はもちろんのこと、わからないことを家族と一緒に調べたり、新聞やテレビのニュースの内容を話したりすることも、自然と力がついていく方法の一つです。



『子どもの心に 寄り添って』



「読み書きの支援(多層指導モデルMIM)」

本校では、できるだけ読むことが苦手にならないように、早い段階(1年生中心)から、苦手とする子どもたちの多い「特殊音節の読み」を中心に、国立特別支援教育総合研究所の海津亜希子先生が開発された「多層指導モデル MIM」を使って、3年半前から学習を進めてきました。

なぜ、読みの指導が大切なの？



☆読みは、全ての学習の基礎。国語だけでなく、算数の文章題も、社会も理科も、さらには日常生活にも影響を与えます。
☆読みが流暢になると、内容理解も向上します！

○特殊音節とは？

促音(つまる音 小さい「っ」)、長音(伸ばす音)、拗音(小さい「ゃ」「ゅ」「ょ」)、拗促音、拗長音のことです。小学校では1年生の前半に学習します。授業での取扱い時間はあまり多くありませんが、苦手とする子どもたちが多く、つまずきやすい所でもあります。

○こんな指導をしています

「多層指導モデル MIM」の特殊音節の指導は「視覚化」と「動作化」を使って行います。色々な感覚を使い、分かりやすく楽しく学習しています。タブレットPCにも、「多層指導モデルMIM」の教材データを取り入れて、子どもたちに親しみながら学んでいけるように工夫しています。

視覚化の例

ね	こ	ね	っ	こ				
●	●	●	●	●				
お	ば	さ	ん	お	ば	あ	さ	ん
●	●	●	●	●	●	●	●	●

どこに促音(つまる音 小さい「っ」)が入るのか、どの音が伸びるのかを目で見て確認します。



子どもたちが、どう書くのか悩んだ時に、視覚化したり動作化したりすることで、**「自分自身で確認できるような力」**をつけていくことが大切だと考えています。

○指導と並行して、子どもたちが理解しているかどうか確認しながら学習を進めています。

子どもたち一人ひとりの読みの力が伸びているか、読みのルールを理解しているかなどを、アセスメント(確認)しながら進めています。

普段の国語科の学習とも並行して、力を伸ばしていきます。

○音読や読書を通じて、読む力を育てています。

教科書の音読を続けるとともに、できるだけ多くの本に親しむように、図書室等を利用して本に触れる経験を積んでいます。



【草津小 HP に、子どもたちの活動等を毎日更新中。「配付物」等も順次掲載しています。ぜひアクセスを!】